



1歳6か月児健診用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. 子どもが遊んでいる周りに、つまずきやすいものや段差がないか注意をしましょう。

床に出してあるおもちゃや掃除機のコード、めくれあがったカーペットにつまずいたり、公園で石段につまずいて転んだり。子どもは足元を見ないで突進してくるので、ちょっとした段差にもつまずき転倒します。

ある程度高さのある段差は認識できますが、ちょっとした段差は逆につまずきやすいので注意が必要です。

おもちゃは床に出しすぎないようにし、部屋の中は整理整頓しておきましょう。

つまずきそうな段差がないか確認して遊ばせましょう。



2. テーブルや椅子など高いところでは立ち上がらないようにさせましょう。

高いところに立ち上がるのを喜び、テーブルやこたつに上っていて落ちてしまったり、椅子や買い物カート、ベビーカーから立ち上がって転落する事故が起こっています。

テーブルや椅子などには立ち上がらないようにさせましょう。

ハイチェアやベビーカーに座らせたら必ず安全ベルトをしめ、乗り降りするときは大人が行うようにしましょう。



3. 階段を上り下りするときは、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつなぎましょう。

階段を上り下りするときは、転んでも支えられるように子どもの下側を歩きます。最初は後ろ向きにハイハイをして降りるようにし、歩いて降りられるようになったら手を取ったり子どもの横か下側を歩きましょう。

また、大人の目が離れることがあっても安全なように階段の上下階には柵をつけ、閉め忘れのないようにしましょう。



4. 子どもの位置を確認してからドアは開けましょう。

開き戸を勢いよく開けたら反対側にいる子どもにぶつかったり、ドアが透明なガラスだと閉まっているのがわからなくて突進してぶつかってしまうことがあります。シールを貼ったりぶつかっても飛び散らないようなフィルムを貼って防止します。

子どもの位置を確認してから、ドアは開閉しましょう。



5. 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊ぶことがないようにしましょう。

家具の引き出しを開け閉めして指をはさんだり、引き出しを出してよじ登りタンスが倒れてはさまれたりします。機密性の高いサッシにはさむと、ひどい場合は指を骨折したり、切断してしまいます。

ドアクッションや引き戸ロック、サッシの溝には消しゴムやラップの芯などはさんで防止しましょう。

サッシの鍵の部分は子どもの背丈からいってもいたずらしたくなる所なので、知らないうちにベランダに一人で出られないように、簡単に開けられないようにロックをしておきましょう。



6. ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走り回らない。

口に物を入れたまま歩いたり、走り回っていると、壁にぶつかったり転んだときに口の中を切ってしまうたり、喉をついたりする危険があります。手に持っていれば転んだとき突き刺さってしまいます。

ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走り回らないようにしましょう。



7. 子どもの腕を強く引っ張らない。

オムツを交換した後、子どもを起こそうとして腕を勢いよく引っ張り、転びそうになって片腕を急に引き上げたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいて引っ張ったりしたときに脱臼は起こっています。

脱臼は癖になりやすいので、急に腕を引いたりしないようにしましょう。



8. ストーブやヒーターは子どもが触れないようにガードをして使用しましょう。

冬は暖房器具によるやけどが多くあります。ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにふれてしまったりします。子どもの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。ストーブの上にやかんは置かないようにしましょう。



9. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱い物に触れないようにしましょう。

台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。ちょっと目を離したすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に落ちてしまったり、足元にいる子どもに熱いスープや油をかけてひどいやけどを負わせてしまったり、テーブルの上のカップラーメンをひっくり返してしまう事故があります。

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置きましょう。

大人の目が離れることがあっても自由に台所には入れないように、柵をつけ、閉め忘れのないようにしておきましょう。

また、アイロンは使用時だけではなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましませう。

